

海外姉妹都市 パサデナ市訪問報告書



【スパークス小（西小姉妹校）の玄関にて】

平成25年5月15日（水）～21日（火）

1 パサデナ市の概要

パサデナ市は、アメリカ合衆国テキサス州ハリス郡の都市である。

人口は149,043人（2010年現在）で、ハリス郡内では2番目、テキサス州内では17番目、全米では162番目に大きな都市である。

NASA（米国航空宇宙局）で有名なヒューストン市の南側に位置し、ヒューストン市のベッドタウン的性格を備えた工業都市でもある。

市内にはパサデナ歴史博物館、ベイエリア博物館およびアーマンド・バイユー自然センターなど幾つかの博物館がある。また、市民劇場があり、パサデナ交響楽団が活動し、毎年ロデオ大会が開催されている。

現在のパサデナ市長は、ジョニー・イズベル氏、また教育長はカーク・ルイス氏である。



2 パサデナ姉妹都市協会について

パサデナ市との交流の窓口は、市民団体である「パサデナ姉妹都市協会」が担っており、パサデナ市や学校等との連絡調整や、訪問の際の各種手配などを行っている。姉妹校同士の作品のやり取りなど、交流の際の仲介役となっている。現在の会長はエド・ゴード氏である。

3 姉妹校の概要

現在2小学校、1中学校が、パサデナ市の学校と姉妹校提携を結んでおり、児童・生徒の作品交換などの交流を行っている。

- 【1985年提携】

広畑保育園 — セントピータース・エписコパル幼稚園※現在閉園

- 【1984年提携】

本町小学校 — テーグ小学校

Teague Elementary School

Principal: Lorie Morris（校長：ロリー・モリス氏）



- 【1987年提携】

西小学校 — スパークス小学校

Sparks Elementary School

Principal: Sherri Means（校長：シェリー・ミーンズ氏）



- 【2009年提携】

渋沢中学校 — トンプソン中学校

Thompson Intermediate School

Principal: Toni Lopez（校長：トニー・ロペス氏）



小中学校、高校などの教育行政は、市長部局とは独立した組織である「パサデナ独立学区」が管轄しており、その長としてスーパーインテンドント（学区長、教育長）がいる。

パサデナの教育形態は、キンダーガーデン（幼稚園）が1年か2年（小学校に併設されており年齢は5歳、6歳）、エレメンタリースクール（小学校）が1年生～4年生（年齢は7～10歳）、ミドルスクール（小学校）が5、6年生（11、12歳）、インターメディアイトスクール（中学校）7、8年生（13、14歳）、ハイスクール（高校）9～12年生（15～18歳）となっており、それぞれ建物が分かれている。

4 訪問の目的

パサデナ市長、教育長、姉妹校などへ訪問し、来年（2014年）に控えた姉妹都市提携50周年記念事業へのはずみにするとともに、今後の姉妹都市交流のさらなる発展を図るため、また今年で40回目を迎える「パサデナ・ストロベリー・フェスティバル」への招待に応えるために訪問した。

5 訪問期日

平成25年5月15日（水）～21日（火） 5泊7日

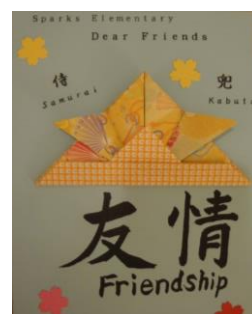
6 参加者

古谷 義幸 市長、 望月 國男 教育委員長（秦野パサデナ友好協会会長）、
片野 新治（秘書課課長補佐）、佐藤 理子（市民自治振興課主事補）、
石井 陽子（渋沢中学校教諭）、名古屋 まゆみ（教育研究所専任主幹） 計6名

7 日程

（1）第1日目（5月15日（水））

- 10時30分 市役所出発
- 16時30分 成田空港出発
- 14時00分 ジョージ・ブッシュ国際空港到着
- 18時30分 パサデナ姉妹都市協会主催歓迎夕食会



【西小から贈ったカード】

（2）第2日目（5月16日（木））

- 10時00分 テーグ小学校訪問（本町小姉妹校）・朝食
- 11時30分 スパークス小学校訪問（西小姉妹校）・昼食
- 14時00分 パサデナ市長（ジョニー・イズベル氏）表敬訪問・会談
- 15時30分 市内見学

（3）第3日目（5月17日（金））

- 9時00分 パサデナ独立学区教育長（カーク・ルイス氏）表敬訪問・会談
- 11時00分 トンプソン中学校訪問（渋沢中姉妹校）・昼食

- 16時00分 ストロベリー・フェスティバル会場へ出発
17時00分 ストロベリー・フェスティバル開会式参加

(4) 第4日目 (5月18日 (土))

- 9時30分 スペースセンター・ヒューストンへ出発
10時00分 スペースセンター・ヒューストン見学
18時30分 パサデナ姉妹都市協会主催さよなら夕食会

(5) 第5日目 (5月19日 (日))

- 9時00分 退役軍人墓地にてパサデナ姉妹都市協会前会長バーバラ・
イーズ氏、バンチ・イーズ氏の墓参
サンジャシント記念碑、バトルシップ・テキサス訪問

(6) 第6日目 (5月20日 (月))

- 10時55分 ジョージ・ブッシュ国際空港出発

(7) 第7日目 (5月21日 (火))

- 14時30分 成田空港到着
18時30分 市役所到着



【テグ小の校長先生と】

8 訪問内容

(1) テグ小学校・スパークス小学校訪問

- ・学年ごとのエリアにそれぞれのトイレがあり、学年はオープンスペースとなっている。クラスのエリアに20名程度の児童がおり、どのクラスも電子黒板を利用した授業を行っていた。
- ・危機管理面から教室に窓は無いが、スペースが広いため、圧迫感はない。
- ・図書室もオープンスペースで、様々な趣向を凝らした装飾が施されていた。
- ・どちらの小学校にもバイリンガルクラス（スペイン語）があり、南米からの移民の子どもたちへの対応がなされていた。
- ・スクールカウンセラーは子どもたちの相談、いじめ防止プログラムの推進のほか、インターネットを通じて保護者の相談なども受けている。
- ・小学校3年生～高校生まで、5月に上の学年に上がるための進級試験を受けなければならない。
- ・廊下も掲示物が多く、姉妹校からの作品や秦野からのお土産物がきれいに飾られていた。
- ・朝食は無料、昼食は保護者の収入に応じての料金でカフェテリアでとることができる。（学生番号の入力で料金計算されるため、子どもたちにはわからない）弁当持参も可だが、持参する子どもは少ないとのこと。
- ・カフェテリアにはステージがあり、音楽や劇の発表、パーティーを行う。



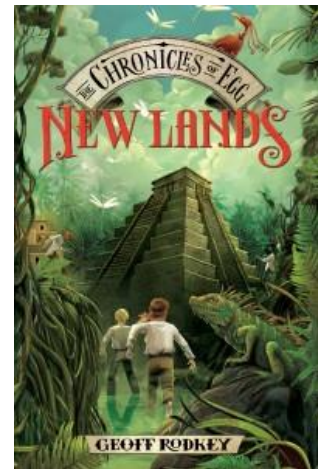
【カフェテリアのステージで音楽発表】



【電子黒板で日本の茶畑について勉強】

(2) トンプソン中学校訪問

- ・中学校も図書室はオープンスペースで秦野や日本の物、姉妹校の作品がたくさん飾ってあった。
- ・訪問時には図書室で、ニューヨーク在住の作家 Geoff Rodkey に生徒たちがスカイプ（インターネットテレビ電話）を通じたインタビューを行っていた。
- ・たくさんの選択教科があり、中には申し込みをして選ばれた生徒だけが受けられる授業もある。
- ・授業参観では合唱団、弦楽合奏団の演奏を聴いたり、美術クラスの生徒の作品紹介を受けることができた。
- ・20人以下での授業が多く、やはりどの教室にも電子黒板が設置されていた。



⇒姉妹校3校から贈られた、児童・生徒の皆さんの絵などを展示。

6月5日（水）から21日（金）までの間、市役所1階ロビーにおいて展示。



(3) パサデナ市長（ジョニー・イズベル氏）表敬訪問・会談

- ・5月11日（土）に市長選が行われたばかりだったが、多くの関係者同席のもと表敬訪問が行われた。
- ・テレビクルーの撮影により、その様子がメディアに取り上げられた。
- ・イズベル市長から、訪問のお礼と、秦野市とのこれまでの友情を踏まえた上で、今後も友好関係を続けていきたい、とのことだった。

- ・古谷市長から、来年秦野市で開催を予定している姉妹都市提携50周年記念式典にイズベル市長を招待したい旨を伝えたところ、イズベル市長から快諾を受けた。
- ・ロビーには架け橋で結ばれた大きな歓迎のケーキが2つ用意されていた。現地の日系企業役員や在ヒューストン日本国総領事館首席領事らも同席した。

⇒平成6年以降、市長の訪米が途絶えている中、市長同士が会ったことで、50年来の絆の確認と今後に向けて一層の交流の確認ができた。

また、来年の姉妹都市提携50周年を記念式典について、古谷市長からイズベル市長へ直接招待の打診をし、快諾を得たことで、記念事業へのはずみとなった。

なお、姉妹都市提携50周年記念式典の時期や内容等については、現在、「パサデナ市姉妹都市提携50周年記念事業検討委員会（望月委員長（秦野パサデナ友好協会会長）」において検討中。



【かけ橋で結ばれた姉妹都市ケーキ】



【イズベル市長を囲んで】

（４）パサデナ独立学区教育長（カーク・ルイス氏）表敬訪問・会談



【トンプソン中での授業】

- ・小学校でも英語授業が始まり英語への関心の高まりを受け、従来の書道や絵画などの作品交換に加え、新たにインターネット等を利用した「英語」を活用した交流について申し入れを行うと、たいへんよい試みであり大賛成である、との回答を得た。
- ・50周年記念事業を検討していく中で、2008年にも派遣したことのある少年野球交流の実施について可能性を探ったが、パサデナの野球チームはすべて私立の団体のため、調整は難しいようである。
- ・パサデナから秦野への生徒や教員の訪問については、進級テストのシーズンでなければ可能性があるとのことであった。しかし保護者の同意のもと、または保護者同伴が必要、との返答であった。
- ・パサデナ独立学区は、特に支援教育が有名で、その教育を受けるために引っ越

しをしてくる家族もいるのことである。独立した支援学校はなく、各学校に支援学級が設置されていて、専門の先生の指導を受けることができる。

- ・課題は貧困層が多く、住民からの教育税で学校を運営している関係上、金銭的に苦しい部分があるとのこと。
- ・現在、4つの新設校の建築が予定されている。



【古谷市長とルイス教育長】

⇒姉妹校を中心とした生徒や教員の交流については、教育長から親の承諾とテストの時期を考慮すれば、可能との回答を得た。

また、新たにインターネット等を利用した「英語」を活用した交流について、教育長に申し入れを行ったところ、快く賛成してくれた。

今後は、インターネットを活用した交流を中心に、交流が更に活発になることが期待できる。

なお、インターネットを活用した交流については、以下のような交流が想定できる。

小学校では、①学校行事や学校生活の写真等を中心としたメールの交換、②トピックを決めてのお互いの学校生活についての質問をメールで交換、中学校では、①、②に加え、③学校生活の動画をメールで交換など。いずれにしても、メールをやり取りできる環境を整備する必要がある。

少年野球交流の実施について可能性を探ったが、公的な団体ではないため、調整が困難であることに加え、パサデナ側の受け入れ体制の面においても、実現は難しい状況である。

(5) ストロベリー・フェスティバル出席

- ・招待を受けたストロベリー・フェスティバルは今年40周年を迎え、多くの参加者でにぎわっていた。苺はかつてパサデナ市の一大産業であり、秦野のたばこ祭り同様、その歴史を称えるフェスティバルでもある。
- ・このストロベリーケーキはその大きさに、ギネスブックに載るほどである。
- ・開会式で古谷市長は記念のケーキカットに参加し、イズベル市長から紹介を受けた後、スピーチで秦野のPRを行った。

【ケーキカットに参加する古谷市長とイズベル市長ほか】



- ・この事業で得た収益は、地域の高校、大学への奨学金、テキサス州やパサデナの歴史保存、大学図書館への書籍寄贈などに充てられ、開会式の中でその授賞式も行われた。



【チャリティーの資金となる巨大なケーキ】

(6) 退役軍人墓地にてパサデナ姉妹都市協会前会長バーバラ・イーズ氏、バンチ・イーズ氏の墓参



【バーバラ・イーズ氏の墓】



【退役軍人墓地にて】